

謹賀新年

「この1年が限りなくお幸せで、明るく元気で飛躍する年になりますように」

一方で、市内各地においてはまちづくり運営協議会が次々と結成されています。すでに10組織(12小学校区)が立ち上がり、それぞれが独自性を発揮しながら、さまざまな地域の課題に対し、日々問題解決に向けて取り組んでいます。

また、全国的に人口減少が心配される中で、昨年における平戸市への移住者はすでに100人を超え、記録を更新し続けています。

本市の目玉政策の一つである「買いたくなる」「行きたくなる」「通いたくなる」「そして「住んでみたくなる」という地域ブランド戦略は徐々にではありますが確実に実現を結び、多くの平戸ファンを全国に広げる勢いを形成しています。

本年5月には新天皇が即位され、新しい年号がスタートします。激動の平成時代を乗り越え、今年から始まる新時代において、今後とも平戸市未来創造羅針盤(第2次平戸市総合計画)



平戸、海のものごたがり



世界文化遺産登録記念コンサート

を市民の皆さまと共に着実に推し進め、山積する課題の解決を図りながら、活力あふれるふるさとづくりに全力を傾注してまいります。

結びに、この1年が皆さまにとりまして、限りなくお幸せで明るく元氣な飛躍の年になりますことをお祈り申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

市

民の皆さま方にはおかれましては、ご家族おそろいで希望に満ちた輝かしい新年をお迎えになられましたことと心からお喜び申し上げます。また、常に市政執行に対し深いご理解と温かいご支援をお寄せいただきましたことに改めて厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、北海道胆振東部地震や日本列島を縦断する大規模台風など、全国各地で甚大な自然災害が発生し、改めて自然の猛威を実感させられました。被災された皆さま方の復興復旧を心よりお祈りいたします。

本市では台風21号が襲来し、幾つもの農業施設や道路などが被害に見舞われましたが、重大な人身事故などが起こらず胸をなで下ろした次第です。

さて、平戸市にとりましては、歴史の節目となる幾つもの出来事がありました。中でも7月には私どもが長

年にわたり祈る思いで待ち望んでおりました「春日集落と安満岳」と「中江ノ島」が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として世界遺産に登録されました。さらに、これを記念するコンサートが世界的音楽家として名を馳せる西本智実さん指揮の下、盛大に開催されました。

また、平戸市のシンボルでもある平戸城が再築されて300周年を迎えました。これを記念したシンポジウムが開催されたほか、平戸城や亀岡神社を舞台に実施された光と音の幻想祭「平戸、海のものごたがり」では、プロジェクションマッピングやアクロバティックなパフォーマンスなどが催され、多くの市民および観光客を魅了しました。

こうしたイベントは、これまでの平戸の観光にはなかった「懐かしくも新しい可能性」として、さらなる交流人口の増大につながると確信しています。



平戸市長 黒田成彦

2019年
年頭のごあいさつ
— A Happy New Year —



平戸市議会議長 大久保 堅太

「活力ある平戸の実現に向け
議会の活性化に努めてまいります」

明

けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、市議会活動に対し、日ごろから多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。私も議長に就任し、1年2カ月が過ぎようとしておりますが、新しい年を迎え、その責任の重さを改めて感

じるとともに、平戸市のさらなる発展のために、引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしております。昨年を振り返りますと、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、全国各地で最高気温を更新するなど未曾有の猛暑が続きました。また、7月に発生した西日本豪雨では観測史上例のない規模の集中豪雨により甚大な被害をもたらしました。本市においても、緊急時への対策を十分に整備しておく必要があると考えております。

市内に目を向けますと、6月30日には「第42回ユネスコ世界遺産委員会」において「平戸の聖地と集落(春日集落と安満岳・中江ノ島)」を構成資産を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産として登録されました。

一方、市議会においては、3月の定例会で玄海原発再稼働に関し、原発の安全性検証の手段が確立されるこ

と、実効性のある避難計画や方法が確立されなければ市民の安全は守ることができないとして「市民の理解が得られない限り、再稼働に反対する」との決議をしたところでもあります。今後も市民の安全性を確保するため引き続き国、県、事業者の責任ある対応を求めていきたいと考えております。

また、12月15日には「西九州自動車道伊万里・松浦道路」の調川ICと松浦IC間の開通式が執り行われました。これもひとえに、市民の皆さまとともに長年にわたり精力的な要望活動を続けてきた成果であり、ご協力いただいた皆さまに改めて感謝申し上げますとともに、今後とも早期完成に向け、積極的に活動してまいりたいと考えております。

さて、本年5月には、天皇退位により30年間続いた「平成」から新しい元号へ代わることとなります。時代も刻一刻と移る中、私たちには、次世代を担う子ども



世界文化遺産登録決定イベント

たちが夢を持つて未来を描くことができる平戸市を創る責務があります。市議会といたしましても「市民がずっと住みたいまちづくりの創出」を実現するため、子どもから高齢者まで、全ての人たちが、安全で安心して元気に暮らすことのできる活力あるまちづくりの実現に向け、議会機能の充実強化を図り、議会の活性化に努めてまいりたいと考えております。今後とも、市民の皆さまの変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。結びに、皆さま方のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。



平戸市教育長 小川 茂敏

明

けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます

昨年は、生涯学習都市宣言から10年という節目の年であり、記念大会を開催するとともに「市民一人ひとりがわが郷土に誇りを持ち、生涯にわたって学び、その成果を活かして、豊かなまちづくりに貢献する」という理念のもとに、第2期平戸市生涯学習推進計画を策定しました。

また、新たに地域リーダーの育成を目的とした長崎県立大学や長崎国際大学

との連携事業「ひらど市民大学」を開講することができました。今年も生涯学習の充実に向けた取り組みを進めてまいります。

一方、学校教育では、単に知識の詰め込みではなく、不透明な将来に力強く生き抜く力の育成が大きな課題となっており、学校に留まらない地域の教育力を生かした育成が求められています。各校ではすでに地域の特性を生かしたさまざまな取り組みが行われており、近年地域の皆さまとともに行う通学合宿の取り組みの輪が広がっていることもありがたいことです。

今年度はさらに、学校と

明

けましておめでとうございます。平成最後のお正月を皆さまにおかれましては、健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、昨年も郷土平戸市はもちろんのこと、長崎県全体の振興のため精一杯活動してまいりました。9月議会におきましては、西九州道路佐々・松浦間の早期着工、道路上に覆いかぶさる樹木の枝払い、街頭や教育施設への防犯カメラの設置などのほか、平戸市の課題を取り込みながら一般質問を行いました。

また、人口減少や県民の所得の低迷、地域力の低下といった課題解決に取り組

むため、来年度予算編成へ向け「新たに統轄監を設置し、横断的な観点から見、縦割り行政を見直し、必要な政策については点から線、線から面へと広げ、さまざまな課題解決に取り組んでいただきたい」と強く県知事に申し入れを行いました。

これからも市民の皆さまのご要望につきましては、黒田市長および市議会議員の皆さまなどと意思疎通を図り、速やかに取り組み早く完了できるよう活動してまいります。

結びに平戸市のさらなるご繁栄と、市民皆さまの健康にて今年が良い年になりますよう心より祈念申し上げます。



長崎県議会議員 西川 克己